

令和6年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

資料1

保護林名	中央アルプス木曾駒ヶ岳森林生態系保護地域		プロット1		プロット3		プロット4
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・木曾森林管理署、南木曾支署						
所在地	長野県木曾郡上松町、大桑村						
面積	4140.20 ha						
設定・変更年	平成8年3月29日設定・平成9年4月1日小班の見直し						

保護林概況写真		保護林の概要等		過去のモニタリング実施概況	
	保護林の概要 (設定目的)	日本海型気候から太平洋型気候への推移帯である本州中央部に位置し、標高が1200m～2900mの範囲にあることから、山地帯から高山帯まで、中央アルプスにおける原生的で多様な天然林を有している。自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資することを目的とする。		結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	・森林調査 (毎木調査、植生調査、定点写真撮影) ・高山植生等調査 保護林内は良好な森林となっていたものの、一部の地域では倒木が多く見られた。登山道への植物の進出、オーバーユースや雨水が原因とみられる浸食が一部でみられた。
	モニタリング実施間隔	10年			
	法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林、土砂流出防備保安林、保健保安林、中央アルプス国定公園			
		実施時期・回数	平成21年、平成26年 ・ 2回		

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	全域で天然生林が75%以上と大きな割合を占めており、その他の区域は林地外に区分される。
樹木の生育状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	後継木が多数生育し、大径木が維持されていることから、森林は維持されていくと考えられた。
下層植生の生育状況	資料調査 森林詳細調査	草本層の植被率が高く、重要種(アリドオシラン)の生育も確認された。
病虫害等発生状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	ニホンジカの食痕や剥皮跡が確認された。現時点において確認数は少なく、森林被害も顕在化していない(植生被害レベル0～1)。シラビソやトウヒの枯損木が散見された。 駒ヶ岳登山道(登山口～標高1500m程)でニホンジカの食痕が散見され、駒ヶ岳頂上付近で谷方向よりニホンジカの鳴き声が確認された。
論文等発表状況	資料調査	学術論文等6資料が確認された。
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	高山植物の植生復元事業や環境省のライチョウの生息域の回復事業がある。 ニホンジカやニホンザルの高山地域への侵入がある。 ニホンジカの増加に伴う高山植物への被害が懸念されることから、対策が求められる。 登山者によるコースを外れての踏み荒らしがある。

評価・課題等	<p>確認できた影響 [ア(野生鳥獣)]</p> <p>総合評価 [健全]</p> <p>良好な山地帯～亜高山帯の森林環境を形成している。 森林被害は顕在化していないが、ニホンジカの侵入が確認されていることから、生息動向に注意が必要である。 巡視等による継続的なモニタリングが求められる。</p>
--------	--

令和6年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

保護林名	木曽生物群集保護林			プロット1		ツキノワグマの剥皮		ハスノハイチゴ
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局木曽森林管理署、南木曽支署、東濃森林管理署							
所在地	長野県木曽郡玉滝村、上松町、大桑村、岐阜県中津川市							
面積	10392.19 ha							
設定・変更年	平成28年4月1日設定							
保護林概況写真			保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
			<p>保護林の概要 (設定目的)</p> <p>天然のヒノキ、サワラ等を含む温帯性針葉樹林は、世界的に希少といわれている。 現存する温帯性針葉樹林をまとまりと連続性をもって、遺伝資源及び森林生態系を保存するとともに、人工林から天然林への誘導を通じて温帯性針葉樹林の復元を図ることを目的とする。</p>			<p>結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林調査 (毎木調査、植生調査、定点写真撮影) ・利用動態調査 <p>後継ヒノキ稚樹の育成のため、アスナロの除去を試験的に実施している。保護林内には赤沢自然休養林内を散策するための歩道が整備され、散策路外への立ち入りなどもなく、人為的な影響は少なかった。</p>		
			モニタリング実施間隔			5年		
			法令等に基づく指定概況			水源かん養保安林、土砂流出防備保安林、保健保安林、鳥獣保護区、特別母樹林、裏木曽県立自然公園、木曽悠久の森		
						実施時期・回数		
						平成21年、平成26年 ・ 2回		
調査項目	調査手法	結果概要						
森林タイプの分布等状況	資料調査	全域で天然生林が42.3%、人工林1が46.5%で、ほぼこの2タイプで占められている。育成天然林や人工林2、林地外は3~5%である。						
樹木の生育状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	後継木が成長し、大径木が維持されていることから、森林は順調に成長していると考えられた。						
下層植生の生育状況	資料調査 森林詳細調査	針葉樹林であるため、草本層の植被率は高くないが、林冠構成種(アスナロ)の幼木の生育が確認された。						
病虫害等発生状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	カモシカとツキノワグマのフィールドサインが確認された。 また、カモシカもしくはニホンジカのフィールドサインが確認された。						
論文等発表状況	資料調査	学術論文等7資料が確認された。森林生態系多様性基礎調査が保護林内で実施されている。						
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	木曽悠久の森(森林生物多様性復元地域)として管理されている。 ニホンジカについては、見かける程度である。 悠久の森として超長期の維持管理について模索中である。						
評価・課題等	<p>確認できた影響 [ア(野生鳥獣)] 総合評価 [健全]</p> <p>良好な天然の針葉樹林が維持されている。 森林の整備・管理計画が作成されている。 森林の階層構造が維持されており、特筆すべき被害状況等も確認されなかった。 聞き取り調査でニホンジカの見撃情報があり、森林概況調査でニホンジカの可能性があるフィールドサインが確認されたことから、巡視時に継続的な確認が求められる。</p>							

令和6年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

保護林名	皆沢アカマツ等遺伝資源希少個体群保護林		プロット1		プロット2		昆虫類の穿孔穴
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・木曽森林管理署						
所在地	長野県木曽郡木曽町						
面積	9.62 ha						
設定・変更年	昭和62年4月1日設定・平成29年4月1日当該保護林へ移行						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
	保護林の概要 (設定目的)	形質の良いアカマツ、サワラ、ウラジロモミ等から構成される天然林の保護・管理を目的とする。			結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	・森林調査 (毎木調査、植生調査、定点写真撮影) サワラ、ウラジロモミは良好に生育し遺伝資源は保存されていた。アカマツの大径木のいくつかは枯死、倒壊したり樹勢の衰えがみられ、アカマツの実生や低木はほとんど生育していなかった。マツノザイセンチュウによる被害(松枯れ)の可能性はある。	
	モニタリング実施間隔	10年					
	法令等に基づく指定概況	なし			実施時期・回数	平成21年、平成26年・2回	
調査項目	調査手法	結果概要					
森林タイプの分布等状況	資料調査	全域が天然生林である。					
樹木の生育状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	アカマツの後継木の生育が乏しく、大径木の枯死が確認された。ただし、森林全体では林冠構成種の後継木が成長し、大径木が維持されており、森林の階層構造に大きな変化もないことから、森林は維持されていくと考えられた。					
下層植生の生育状況	資料調査 森林詳細調査	保護林の斜面下部の草本層は植被率が高く、多様な種が確認された。重要種(ササユリ、ヒメヤマウズラ、アリドシラン)の生育が確認された。					
病虫害等発生状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	過年度調査(平成26年度)同様にアカマツ大径木の枯損原因として、マツノザイセンチュウによる被害(松枯れ)の可能性が示唆された。ただし、航空写真より松枯れの面的な広がり確認されなかった。					
保護対象種の生育・生息状況 (希少個体群保護林)	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	アカマツ、サワラ、ウラジロモミの成木と実生の生育が確認された。					
論文等発表状況	資料調査	学術論文や技術資料、イベント利用等の資料は確認されなかった。					
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	特に施業等の管理は実施していない。現状において課題は特いない。					
評価・課題等	<p>確認できた影響 [イ(病虫害)] 総合評価 [健全]</p> <p>アカマツの大径木の枯死が確認されるなど、松枯れの可能性が示唆されているが、面的な広がり確認されていない。アカマツについては今後、巡視等により生育・更新状況に注意が必要である。</p>						

令和6年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

保護林名	寢覚の床サワラ遺伝資源希少個体群保護林		プロット1		プロット2		ニホンジカの剥皮
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・木曽森林管理署						
所在地	長野県木曽郡上松町						
面積	57.25 ha						
設定・変更年	昭和62年4月1日設定・平成29年4月1日当該保護林へ移行						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
	保護林の概要 (設定目的)	サワラ、木曽ヒノキ、コメツガ等から構成される天然林の保護・管理を目的とする。			結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	・森林調査 (毎木調査、植生調査、定点写真撮影) サワラ林として保護林に設定されているが、保護林下部ではガレ場が多いこともあり、ヒノキの比率が高かった。上部に向かうにしたがってサワラの比率が高くなっていった。	
	モニタリング実施間隔	10年					
	法令等に基づく指定概況	風致保安林、中央アルプス国立公園			実施時期・回数	平成21年、平成26年・2回	
調査項目	調査手法	結果概要					
森林タイプの分布等状況	資料調査	全域が天然生林である。					
樹木の生育状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	後継木が生育しており、大径木も概ね維持されていることから、森林は維持されていくと考えられた。					
下層植生の生育状況	資料調査 森林詳細調査	低木層や草本層の植被率が維持されており、重要種(オオクボシダ)の生育も確認された。					
病虫害等発生状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	プロットでニホンジカによる剥皮が確認されたが、草本等への食痕が無く、下層植生は豊富であった(植生被害レベル0)。尾根部のリュウブにニホンジカの剥皮が多数確認されたことから、群れ単位で生息している可能性がある。ツキノワグマの剥皮や糞が確認された。					
保護対象種の生育・生息状況 (希少個体群保護林)	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	サワラ、ヒノキの成木が確認され、実生や幼木の生育も確認された。コメツガの生育は確認されなかった。					
論文等発表状況	資料調査	学術論文や技術資料等は確認されず、観光資料として2資料が確認された。					
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	特に施業等の管理は実施していない。現状において課題は特にない。					
評価・課題等	<p>確認できた影響 [ア(野生鳥獣)] 総合評価 [健全]</p> <p>良好な天然の針葉樹林が維持されている。 ニホンジカが群れ単位で生息している可能性があることから、生息動向に注意が必要である。 巡視等による継続的なモニタリングが求められる。</p>						

令和6年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

保護林名	瀬戸川ヒノキ等希少個体群保護林		プロット1		プロット2		ハスノハイチゴ
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・木曽森林管理署						
所在地	長野県木曽郡王滝村						
面積	2.24 ha						
設定・変更年	平成5年4月1日設定・平成29年4月1日当該保護林へ移行						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
	保護林の概要 (設定目的)	阿寺山系の木曽ヒノキを主体とし、コウヤマキ、サワラ、広葉樹等から構成される原生林に近い天然林であり、学術的に価値が高いことから、この個体群の保護・管理を目的とする。			結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	・森林調査 (毎木調査、植生調査、定点写真撮影) 保護林には樹高約30mのヒノキが多くみられ、サクラ、コウヤマキを交え林床が明るく良好な林となっていた。	
	モニタリング実施間隔	10年					
	法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林、鳥獣保護区			実施時期・回数	平成21年、平成26年・2回	
調査項目	調査手法	結果概要					
森林タイプの分布等状況	資料調査	全域が天然生林である。					
樹木の生育状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	後継木と大径木の生育が概ね維持されており、森林の階層構造に大きな変化がないことから、森林は維持されていくと考えられた。					
下層植生の生育状況	資料調査 森林詳細調査	草本層の植被率が比較的高く、構成種も概ね過年度と同等であった。					
病虫害等発生状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	カモンシカもしくはニホンジカのフィールドサインが確認された。 ツキノワグマの剥皮が確認された。					
保護対象種の生育・生息状況 (希少個体群保護林)	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	ヒノキ、サワラ、コウヤマキの成木が確認され、特にコウヤマキの幼木が多数確認された。ヒノキやサワラの実生や幼木は少なかった。					
論文等発表状況	資料調査	学術論文や技術資料等は確認されず、観光資料等として3資料が確認された。					
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	天然のヒノキ林で、王滝村の村有林と協定を結んで、「ふれあいの森」の一部として管理している。 現状において課題は特にない。					
評価・課題等	確認できた影響 [ア(野生鳥獣)] 総合評価 [健全] 良好な天然の針葉樹林が維持されている。 森林の階層構造が維持されている。 ニホンジカの可能性のあるフィールドサインが確認されたことから、巡視時に継続的な確認が求められる。						

令和6年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

保護林名	台ヶ峰サワラ希少個体群保護林		プロット1		プロット2		ヒメウワバミノウ
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・木曾森林管理署						
所在地	長野県木曾郡木曾町						
面積	7.20 ha						
設定・変更年	平成29年4月1日設定						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
	保護林の概要 (設定目的)	サワラの占有率が高く、木曾谷でも特に優れた典型的なサワラ天然林となっていることから、当該個体群の保護・管理を目的とする。			結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	・森林調査 (毎木調査、植生調査、定点写真撮影) 樹高30m級のサワラに加えヒノキが多い。林床は明るく、草本層の生育もみられ良好な林となっていた。	
	モニタリング実施間隔	10年					
	法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林			実施時期・回数	平成21年、平成26年・2回	
調査項目	調査手法	結果概要					
森林タイプの分布等状況	資料調査	ほぼ全域である97.3%が天然生林で、2.7%が人工林1となっている。					
樹木の生育状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	後継木の生育が確認されていないが、大径木が維持されており、森林の階層構造に大きな変化がないことから、森林は維持されていくと考えられた。					
下層植生の生育状況	資料調査 森林詳細調査	草本層の植被率が高く、重要種(ヒメヤマウズラ、ハスノハイチゴ)の生育も確認された。					
病虫害等発生状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	カモシカもしくはニホンジカのフィールドサインが確認された。ツキノワグマの剥皮が確認され、ヒノキの被害率は14~20%程度である。					
保護対象種の生育・生息状況 (希少個体群保護林)	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	サワラの大径木と実生の生育が確認された。					
論文等発表状況	資料調査	学術論文や技術資料、イベント利用等の資料は確認されなかった。					
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	特に施業等の管理は実施していない。周辺の国有林においては、人工林の管理・施業を実施している。現状において課題は特いない。					
評価・課題等	<p>確認できた影響 [ア(野生鳥獣)] 総合評価 [健全]</p> <p>良好な天然の針葉樹林が維持されている。 ニホンジカの可能性のあるフィールドサインが確認され、ツキノワグマによる剥皮被害の増加が懸念されることから、巡視時に継続的な確認が求められる。</p>						

令和6年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

保護林名	鉢盛山コメツガ等遺伝資源希少個体群保護林		プロット1		プロット2		ニホンジカの剥皮
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・木曽森林管理署						
所在地	長野県木曽郡木祖村						
面積	75.07 ha						
設定・変更年	昭和62年4月1日設定・平成29年4月1日当該保護林へ移行						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
	保護林の概要 (設定目的)	鉢盛山近辺のコメツガ、トウヒ、ダケカンバ等から構成される天然林の保護・管理を目的とする。			結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	・森林調査 (毎木調査、植生調査、定点写真撮影) コメツガ、トウヒ等の針葉樹林では、林床にクマイザサが密に生育し、コメツガ、トウヒ、シラビンなどの次世代樹種の実生、低木が少なく、天然更新は良好ではない状況にあった。高木個体密度が全体的に低く、林内がかなり明るかった。	
	モニタリング実施間隔	10年					
	法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林			実施時期・回数	平成21年、平成26年・2回	
調査項目	調査手法	結果概要					
森林タイプの分布等状況	資料調査	全域が天然生林である。					
樹木の生育状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	後継木の生育が少ないが、林冠を構成する大径木が維持・増加していることから、森林は維持されていくと考えられた。					
下層植生の生育状況	資料調査 森林詳細調査	過年度からクマイザサが繁茂しており、草本層の植被率は高い値で推移している。					
病虫害等発生状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	過年度から一部斜面地でギャップが点在している。 保護林内でニホンジカの剥皮被害が1つ確認された。 保護林外の林道でニホンジカの痕跡が多数確認された。ニホンジカが林道を利用して生息地を拡大していると考えられた。					
保護対象種の生育・生息状況 (希少個体群保護林)	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	コメツガ、トウヒ、ダケカンバの成木が確認され、コメツガとダケカンバは幼木も確認された。					
論文等発表状況	資料調査	学術論文や技術資料等は確認されず、観光資料等として1資料が確認された。					
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	特に施業等の管理は実施していない。 林道が車両通行できない状況にある等、維持管理に課題がある。					
評価・課題等	<p>確認できた影響 [ア(野生鳥獣)] 総合評価 [健全]</p> <p>ギャップが点在している老齢の天然針葉樹林が維持されている。 森林被害は顕在化していないが、ニホンジカの侵入が確認されており、餌場となりうるキャップ地があり、林道を利用して生息地を拡大している状況から、生息動向に注意が必要である。 巡視等による継続的なモニタリングが求められる。</p>						

令和6年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

保護林名	油木沢ヒノキ希少個体群保護林		プロット1		プロット2		ハスノハイチゴ
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・木曽森林管理署						
所在地	長野県木曽郡木曽町						
面積	48.80 ha						
設定・変更年	昭和47年4月1日設定・平成29年4月1日当該保護林へ移行						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
	保護林の概要 (設定目的)	木曽ヒノキ、サワラ、ミズナラ、カンバ等から構成される針広混交林となっており、人為が加わって成林した典型的な木曽ヒノキ個体群の保護・管理を目的とする。			結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	・森林調査 (毎木調査、植生調査、定点写真撮影) 人為により成林したヒノキ純林で、ヒノキが優占する。森林の階層構造は亜高木層がほぼ欠落し、クマイザサを主とする極めて密なササ群落が低木層を覆い、草本層は極めて貧弱であった。	
	モニタリング実施間隔	10年					
	法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林、特別母樹林、御岳県立公園					
				実施時期・回数	平成21年、平成26年 ・ 2回		
調査項目	調査手法	結果概要					
森林タイプの分布等状況	資料調査	全域が天然生林である。					
樹木の生育状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	後継木は少ないが、大径木が増加しており、森林の階層構造に大きな変化がないことから、森林は維持されていくと考えられた。					
下層植生の生育状況	資料調査 森林詳細調査	過年度からクマイザサが繁茂しており、草本層の植被率は高い値で推移している。					
病虫害等発生状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	ミズナラの倒木(枯損からの風倒)が確認された。 ニホンジカの剥皮が確認された。現時点において確認数は少なく、森林被害も顕在化していない(植生被害レベル0)。					
保護対象種の生育・生息状況 (希少個体群保護林)	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	ヒノキ、サワラ、ミズナラの成木、実生の生育が確認された。					
論文等発表状況	資料調査	学術論文や技術資料等は確認されず、観光資料等として1資料が確認された。					
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	特に施業等の管理は実施していない。 現状において課題は特いない。					
評価・課題等	<p>確認できた影響 [ア(野生鳥獣)] 総合評価 [健全]</p> <p>良好な天然の針葉樹林が維持されている。 森林の階層構造が維持されている。 森林被害は顕在化していないが、ニホンジカの侵入が確認されていることから、生息動向に注意が必要である。 巡視等による継続的なモニタリングが求められる。</p>						

令和6年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

保護林名	新高コメツガ等遺伝資源希少個体群保護林		プロット1		プロット2		管理道の状況
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・木曽森林管理署						
所在地	長野県木曽郡木曽町						
面積	51.13 ha						
設定・変更年	昭和62年4月1日設定・平成29年4月1日当該保護林へ移行						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
	保護林の概要 (設定目的)	コメツガ、シラビソ、オオシラビソの成熟相を呈し、チョウセンゴヨウ、クロベ等の混交する天然林の保護・管理を目的とする。			結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	・森林調査 (毎木調査、植生調査、定点写真撮影) 火山起因による岩屑斜面上に発達した、典型的な火山性亜高山帯コメツガ林であり、全階層(コケ層も含め)状態はきわめて良好で、保護林の植生に問題は見られなかった。	
	モニタリング実施間隔	10年					
	法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林、御岳県立公園			実施時期・回数	平成21年、平成26年・2回	
調査項目	調査手法	結果概要					
森林タイプの分布等状況	資料調査	全域が天然生林である。					
樹木の生育状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	後継木及び大径木が維持されており、森林の階層構造に大きな変化が無いことから、森林は維持されていくと考えられた。					
下層植生の生育状況	資料調査 森林詳細調査	過年度からクマイザサが繁茂しており、草本層の植被率は高い値で推移している。 重要種(ヒメヤマウズラ)の生育も確認された。					
病虫害等発生状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	単木的に倒木が確認された程度で、特筆すべき事象は確認されなかった。 ツキノワグマの剥皮とカモシカもしくはニホンジカの食痕が確認された。 管理道は草丈2m程のクマイザサに覆われて消失しており、歩行が困難な状況である。					
保護対象種の生育・生息状況 (希少個体群保護林)	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	コメツガ、シラビソの成木が確認され、シラビソの実生や幼木が多数確認された。コメツガとオオシラビソの実生や幼木は少ない。					
論文等発表状況	資料調査	学術論文や技術資料、イベント利用等の資料は確認されなかった。					
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	特に施業等の管理は実施していない。 林道の通行状況等の維持管理に課題がある。					
評価・課題等	<p>確認できた影響 [ア(野生鳥獣)] 総合評価 [健全]</p> <p>良好な天然の針葉樹林が維持されている。 ニホンジカの可能性のあるフィールドサインが確認されたことから、巡視時に継続的な確認が求められる。</p>						

令和6年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

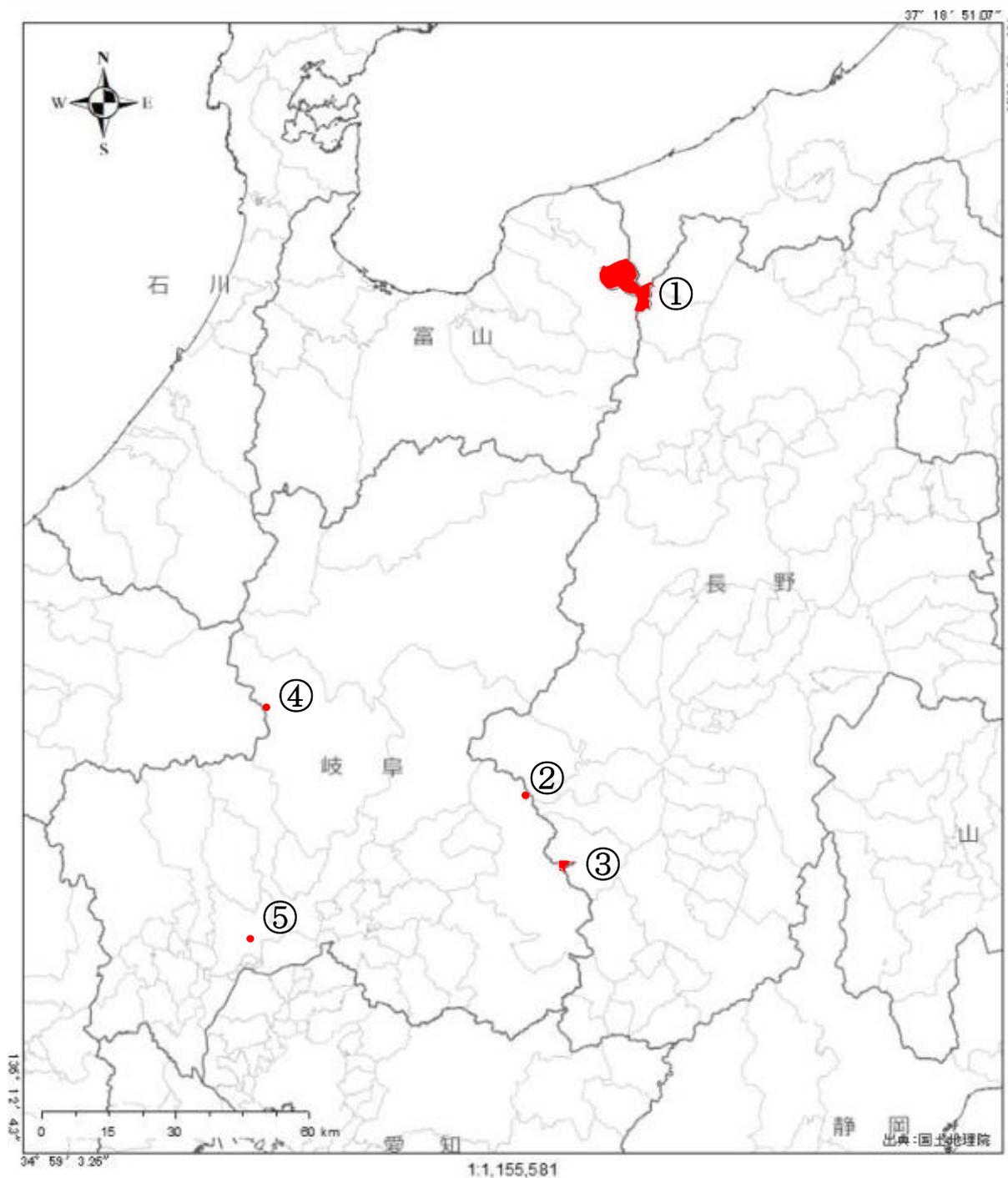
保護林名	南木曾岳生物群集保護林		プロット3		プロット5		ニホンジカの剥皮
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・木曾森林管理署南木曾支署						
所在地	長野県木曾郡南木曾町						
面積	672.87 ha						
設定・変更年	平成19年4月1日設定・平成29年4月1日当該保護林へ移行						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
	保護林の概要 (設定目的)	南木曾岳山頂部周辺には木曾ヒノキ、コウヤマキ、クロベ等の天然木が生育し、その林床にキョウマルシャクナゲ等が生育するなど、深層風化花崗岩からなる急峻な山岳地形に形成された木曾谷南部の典型的な生物群集を有する森林の保護・管理を図ることを目的とする。 なお、当該保護林は比較的同質な天然林であることから、地帯区分の設定は行わない。			結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	・森林調査 (毎木調査、植生調査、定点写真撮影) 保護林西部の谷において大規模な土石流により甚大な被害をもたらす災害が発生して、一部の谷地形は大きく変化したが、樹林内の地形、植物群落はともに大きな変化はなく、保護林全体としては保全されていた。	
	モニタリング実施間隔	10年					
	法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林、土砂流出防備保安林、県自然環境保全地域特別地区			実施時期・回数	平成21年、平成26年・2回	
調査項目	調査手法	結果概要					
森林タイプの分布等状況	資料調査	ほぼ全域を天然生林が占めており、その他は人工林1が1%程である。					
樹木の生育状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	後継木が生育し、大径木が維持され、多様な樹種が混生して林冠を構成していることから、森林は維持されていくと考えられた。					
下層植生の生育状況	資料調査 森林詳細調査	過年度からミヤマクマザサが繁茂しており、草本層の植被率は高い値で推移している。 重要種(キョウマルシャクナゲ)の生育も確認された。					
病虫害等発生状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	プロットでツキノワグマの剥皮被害が、登山道沿いにニホンジカとツキノワグマの剥皮被害が確認された。 尾根部のリョウブに単木的ではあるが、ニホンジカの剥皮被害が複数確認されたことから、今後の森林被害の拡大が懸念される。					
論文等発表状況	資料調査	学術論文等5資料が確認された。					
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	特に施業等の管理は実施していない。 現状において課題は特にない。					
評価・課題等	<p>確認できた影響 [ア(野生鳥獣)] 総合評価 [健全]</p> <p>多様な樹種が混生する良好な天然林が維持されている。 ニホンジカによる森林被害の拡大が懸念されるため、生息動向に注意が必要である。 巡視等による継続的なモニタリングが求められる。</p>						

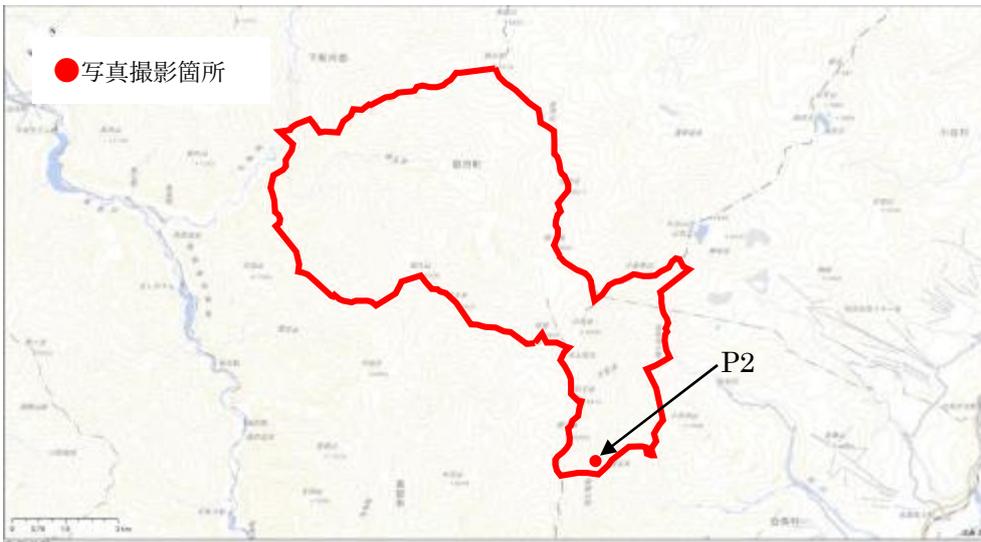
令和6年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

保護林名	恵那山生物群集保護林			プロット4		プロット5		ブラウジングラインの状況
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・東濃森林管理署							
所在地	岐阜県中津川市							
面積	492.21 ha							
設定・変更年	平成5年4月1日設定・平成30年4月1日当該保護林へ移行							
保護林概況写真			保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
	保護林の概要 (設定目的)		恵那山上部には亜高山帯針葉樹であるシラビソ(シラベ)等の群落があり、一部林床にオサバグサが生育している。このオサバグサ群落は岐阜県の分布の南限にあたり貴重であるため、山地帯上部から亜高山帯まで一体的な保護を図ることを目的とする。 なお、当該保護林は均質な天然林であることから地帯区分の設定は行わない。			結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)		
	モニタリング実施間隔		5年					
	法令等に基づく指定概況		土砂流出防備保安林、胞山県立自然公園			実施時期・回数		
					平成22年、平成27年、令和2年 ・ 3回			
調査項目	調査手法	結果概要						
森林タイプの分布等状況	資料調査	全域が天然生林である。						
樹木の生育状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	後継木の生育本数が多いが、大径木が少なく、森林の更新状況に注意が必要と考えられた。 特にシラビソやオオシラビソは大径木が少ない上に、若木が減少していることから、生育状況に注意が必要である。 ニホンジカによる剥皮率の増加に伴う森林被害の拡大が懸念された。						
下層植生の生育状況	資料調査 森林詳細調査	草本層の植被率が高く、重要種(オサバグサ)の生育も確認された。 林冠構成種(シラビソ、コメツガ、トウヒ)の幼木の生育が確認された。						
病虫害等発生状況	資料調査 森林概況調査 森林詳細調査	シラビソ等の枯損木や倒木が散見された。 過年度同様に、ニホンジカの食害によりササ類の矮小化が確認された(植生被害レベル3)。 尾根部にニホンジカの食痕や剥皮被害が多数確認され、ブラウジングラインの形成といった森林被害の顕在化が確認された。						
論文等発表状況	資料調査	学術論文等3資料が確認された。						
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	特に施業等の管理は実施していない。 ニホンジカの生息状況について、東濃森林管理署でセンサーカメラを設置して調査を実施している。 ニホンジカの食害が懸念される。 林道の修繕工事は国交省の管轄部分は始まっているが、全体的な開通には時間がかかる。						
評価・課題等	<p>確認できた影響 [ア(野生鳥獣)] 総合評価 [要注意]</p> <p>シラビソ等の森林の更新状況に注意が必要と考えられた。 ニホンジカ被害において、剥皮率の増加が確認され、ブラウジングラインの形成が進む等の森林被害の顕在化が確認されたことから、東濃森林管理署が継続調査を実施しているように、生息動向により一層の注意が必要である。 5年ごとのモニタリング調査とともに、巡視の強化が望ましい。</p>							

令和6年度 保護林モニタリング直営調査箇所 全体位置図

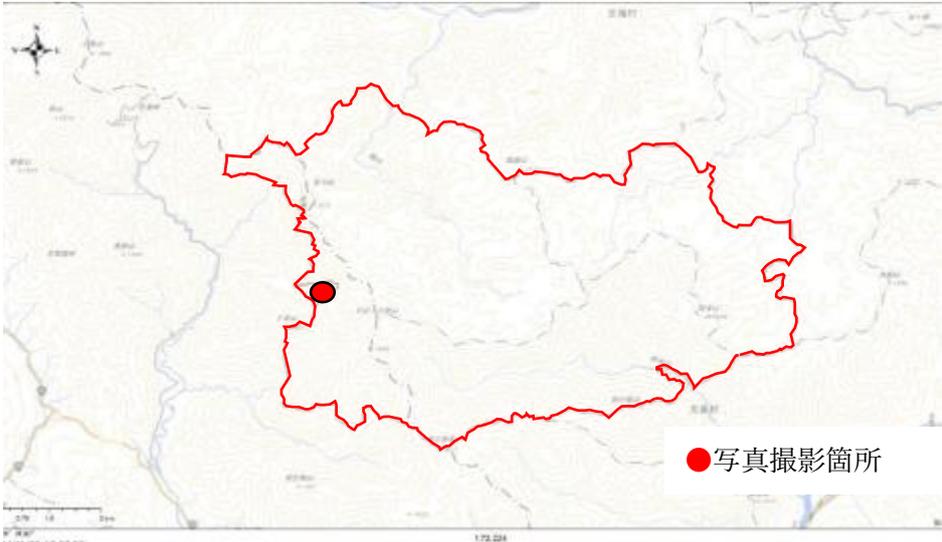
- ①北アルプス（朝日・白馬連山）生物群集保護林
- ②木曾生物群集保護林（旧名古屋ヒノキ・サワラ10 林木遺伝資源保存林）
- ③賤母生物群集保護林
- ④イボラスギ遺伝資源希少個体群保護林
- ⑤金華山アラカシ・ツブラジイ遺伝資源希少個体群保護林

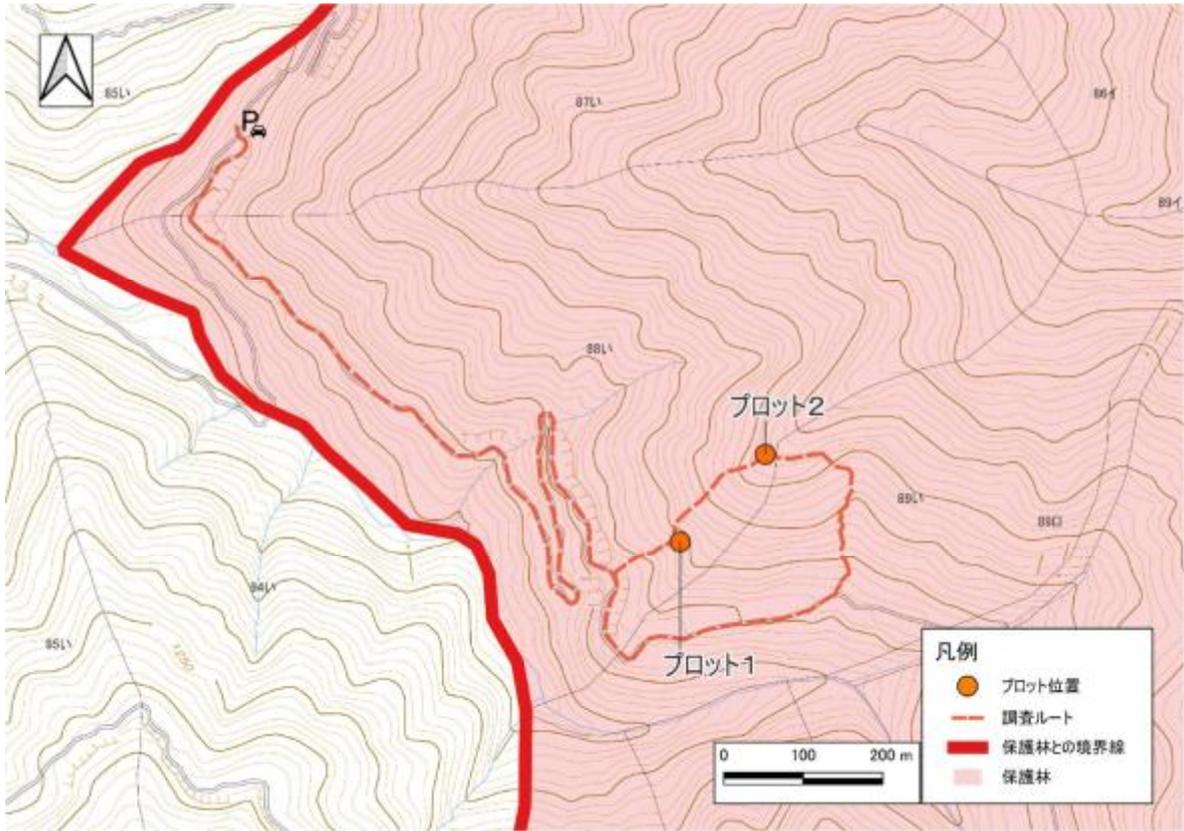


名 称	北アルプス（朝日・白馬連山）生物群集保護林		
面 積	6,075.52 ha	設定年月日	平成30年4月1日
		変更年月日	
		調査年月日	令和6年10月2日
位置及び区域	森林管理署・事務所	富山森林管理署 宇奈月森林事務所 中信森林管理署 白馬森林事務所	
	所在市町村	富山県下新川郡朝日町、黒部市 長野県北安曇郡白馬村	
	保護林の位置	【富山署】大蓮華国有林、黒部奥山国有林 【中信署】白馬山国有林	
	保護林の区域と写真撮影箇所		
設定目的	<p>日本海側気候の特長を示すブナ帯から高山帯にかけての代表的な森林帯が分布している。朝日岳（2,418m）から日本海までの距離は18kmと短く、冬季の季節風を直接受けるため代表的な日本海側の植生となっている。また、朝日岳から白馬岳（2,933m）一帯は山岳の地形が変化に富んでいるため、400種にも及ぶ高山植物の宝庫となっていることから、国の特別天然記念物「白馬連山高山植物帯」として昭和27(1952)年3月29日に指定されている。この地域の貴重な森林生態系の保護・管理を図ることを目的とする。</p>		
地況、林況	<p>朝日岳側は、後立山連峰の西側に所在し、主な傾斜方位は西向きである。気候は日本海側の特長を示し、冬季に寒冷で且つ多雪である。地質は蓮華変成岩類のチャート、蛇紋岩等が分布している。土壌は褐色森林土、岩屑土、高山性岩屑土、湿性ポドゾル土壌等が分布している。</p> <p>標高: 約500m～2,932m</p> <p>気候: 気候は日本海側の気候特長を示し、冬季に寒冷で且つ多雪である。</p> <p>降水量: 黒部市宇奈月の観測地での年降水量は3,385mm（地域別の森林計画書）となっており、当該保護林は標高が高いことから、降水量は観測地よりも多いと推計される。</p> <p>地質: 古生代から中世代の様々な岩石が分布しており、高山帯においては</p>		

	<p>蛇紋岩、花崗岩、流紋岩、石灰岩などが分布している。</p> <p>土 壤: 中山間地帯はほとんど褐色森林土であるが、標高 1,000m以上の隆起準平原面には湿性ポドゾル、狭長な尾根部には乾性ポドゾルが分布している。</p>
調査結果	<p>登山道からの遠望及びプロットの確認の結果、大きな変化は見られず、保護林内の環境は維持されている。</p> <p>今後も、森林官等による現場巡視・巡検により、経過観察等を実施していく。</p>



名 称	木曽生物群集保護林（旧名古屋ヒノキ サワラ 10 林木遺伝資源保存林）			
面 積	保存地区	3,266.53 ha（44.16ha）	設定年月日	平成28年4月1日
	保全利用地区	7,125.66 ha	変更年月日	
			調査年月日	令和6年11月29日
位置及び区域	森林管理署・事務所	木曽森林管理署 駒ヶ岳・氷ヶ瀬森林事務所 木曽森林管理署南木曽支署 阿寺森林事務所 東濃森林管理署 西股森林事務所		
	所在市町村	長野県木曽郡王滝村、上松町、大桑村 岐阜県中津川市		
	保護林の位置	【木曽署】小川入国有林、王滝国有林 【南木曽支署】阿寺国有林 【東濃署】加子母裏木曽国有林、付知裏木曽国有林		
	保護林の区域と写真撮影箇所			
設定目的	<p>天然のヒノキ、サワラ等を含む温帯性針葉樹林は、世界的に希少といわれている。</p> <p>現存する温帯性針葉樹林をまとまりと連続性をもって、遺伝資源及び森林生態系を保存するとともに、人工林から天然林への誘導を通じて温帯性針葉樹林の復元を図ることを目的とする。</p>			
調査結果	<p>プロットの確認及び林内巡視の結果大きな変化は見られず、保護林内の環境は維持されている。</p> <p>下層にササが無いプロット1では実生によるサワラの稚樹もみられた。</p> <p>今後も、森林官等による現場巡視・巡検により、経過観察等を実施していく。</p>			



プロット1



プロット1 (実生サワラ稚樹)



プロット2



プロット2



名 称	賤母生物群集保護林			
面 積	保存地区	157.33 ha	設定年月日	平成 30 年 4 月 1 日
	保全利用地区	93.69ha	変更年月日	
			調査年月日	令和 6 年 9 月 13 日 令和 6 年 11 月 28 日
位置及び区域	森林管理署・事務所	東濃森林管理署 神坂森林事務所 木曾森林管理署南木曾支署 蘭森林事務所		
	所在市町村	岐阜県中津川市 長野県木曾郡南木曾町		
	保護林の位置 賤母国有林			
	保護林の区域と写真撮影箇所			
				
設定目的	<p>岐阜県の北端、木曾川左岸の標高 300m～500m の範囲に位置し、ヒノキ、サワラを主体とする林分に照葉樹が混在し、急峻な斜面に 500 種以上の植物が繁茂している。太平洋側の温帯林と暖帯林の移行層として、木曾谷の多くの森林と異なる特異な植生を形成していることから、これらを保護することを目的とする。</p>			
地況、林況	<p>木曾川左岸に面し斜面方向は北向きである。 花崗岩地帯であり、降雨量が多いことから、木曾ヒノキ、サワラ、モミ、ツガ、コウヤマキ及び広葉樹等から構成される天然林が大部分である。一部に約 40～50 年生のヒノキ及びスギの人工林がある。温帯系と暖帯系植物が混生する天然林で、モミ・シキミ群集にまとめられる林分が、ほとんど人為的な影響を受けることなく残されている。高木層は 20m 余のモミ、ツガ、ヒノキ等で、低木層には、シロモジ、アセビ、シキミ、テイカカズラ、シラキ、ウラジロガシ、ユズリハ、ヒサカキ、カヤ、マメヅタ、コウヤマキ、ヤブツバキなどの暖帯系の常緑広葉樹を多く含む森林で、構成種は 500 種に及ぶとされている。</p>			

調査結果	<p>プロットの確認及び林内巡視の結果、林内に大きな変化は見られず、保護林内の環境は維持されている。</p> <p>今後も、森林官等による現場巡視・巡検により、経過観察等を実施していく。</p>
------	---

P2



遠望



名 称	イボラスギ遺伝資源希少個体群保護林		
面 積	9.34 ha	設定年月日	平成元年 4 月 1 日
		変更年月日	
		調査年月日	令和 6 年 10 月 2 1 日
位置及び区域	森林管理署・事務所	岐阜森林管理署 白鳥森林事務所	
	所在市町村	岐阜県郡上市	
	保護林の位置 井洞国有林 4026 い、4027 い林小班		
	保護林の区域と写真撮影箇所		
設定目的	井洞国有林に群生する伏条性の強いイボラスギを主体として構成される天然林は貴重であるため、当該個体群の保護・管理を目的とする。		
地況、林況	<p>北東斜面の中腹に位置し、天然生スギとミズナラ、ブナなどの落葉広葉樹で構成されている。スギは本数率で 85%、ミズナラは本数率で 13%、ブナは本数率 2% である。</p> <p>標 高：850～1,060m</p> <p>気 候：日本海側気候の影響を受けている。冬季の冷え込みは厳しく、年平均気温は、11.4℃である。</p> <p>降水量：年平均 3,003mm で、特に冬季の降雪量が多い。</p> <p>地 質：濃飛流紋岩類</p> <p>土 壤：適潤性褐色森林土（BD 型）がほとんどを占めている。</p>		
調査結果	<p>プロットの確認及び林内巡視の結果、林内に大きな変化は見られず、保護林内の環境は維持されている。</p> <p>今後も、森林官等による現場巡視・巡検により、経過観察等を実施していく。</p>		

プロット1



プロット1



プロット2



プロット2



イボラ大杉



名 称	金華山アラカシ・ツブラジイ遺伝資源希少個体群保護林		
面 積	10.81 ha	設定年月日	平成元年 4 月 1 日
		変更年月日	
		調査年月日	令和 5 年 5 月 9 日
位置及び区域	森林管理署・事務所	岐阜森林管理署 岐阜森林事務所	
	所在市町村	岐阜県岐阜市	
	保護林の位置 金華山国有林 3185 ろとる林小班		
	保護林の区域と写真撮影箇所		
			
設定目的	<p>金華山国有林に群生しているアラカシ、ツブラジイ等で構成される天然林は、都市近郊林として貴重である。このアラカシ個体群とツブラジイ個体群の保護・管理を図る。</p>		
地況、林況	<p>金華山（岐阜城）の南東側斜面に位置し、アラカシ、ツブラジイ、天然生ヒノキ、サカキ、アカメモチ、ミズキ、タカノツメ、リョウブ、ネジキ、ソヨゴ等が生息している。アラカシは本数率で 23%あるが低木が多い。ツブラジイは本数率 17%であるが高木が多い。天然生のヒノキは本数率 11%である。アラカシとツブラジイは、天然生ヒノキと比較し、平均胸高直径と平均樹高ともに小さく、天然生ヒノキの林冠の下層で生育している。太いサカキも多い(平均胸高直径は 10cm)。</p> <p>標 高: 60~220m</p> <p>気 候: 太平洋岸気候。最高気温は 37.9℃で、年平均気温は 16.1℃。</p> <p>降水量: 年平均 1,937mm で、冬期には降雪があり。</p> <p>地 質: 古生層</p> <p>土 壤: 乾性赤色系褐色森林土 (rB B) が広く分布、一部には適潤性赤色系褐色森林土 (rB D(d)) が出現。</p>		

調査結果

林内巡視の結果、林内に大きな変化は見られず、保護林内の環境は維持されている。

今後も、森林官等による現場巡視・巡検により、経過観察等を実施していく。

保護林看板



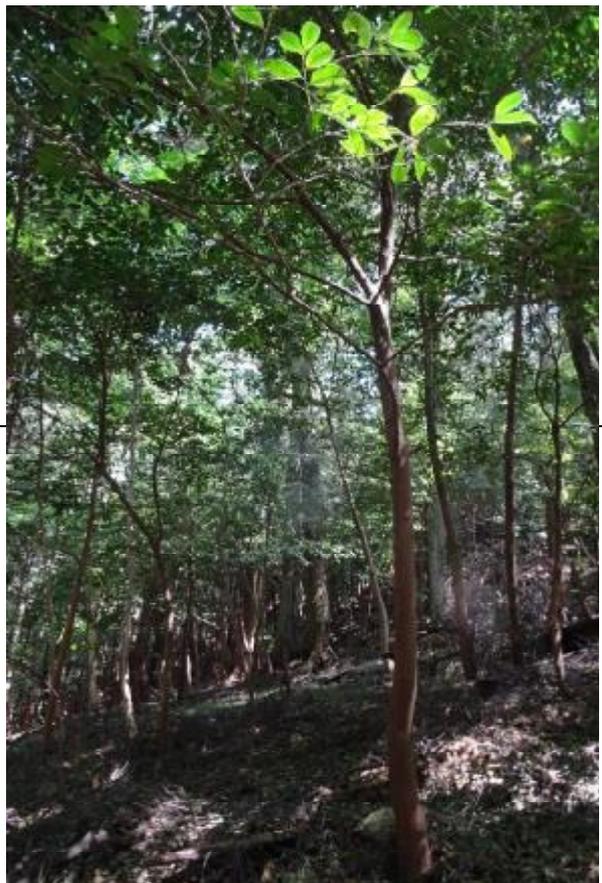
保護林内



保護林看板周辺



保護林内



令和7年度 保護林モニタリング現地調査計画について

	森林計画区	調査予定箇所	面積
1	中部山岳/宮・庄川	南アルプス南部光岳森林生態系保護地域	1,511.03ha
2	木曾谷/飛騨川/宮・庄川	御岳生物群集保護林	3,121.61ha
3	神通川	タテヤマスギ遺伝資源希少個体群保護林	18.29ha
4	伊那谷	小黒川ウラジロモミ遺伝資源希少個体群保護林	11.48ha
5	伊那谷	大河原イヌブナ遺伝資源希少個体群保護林	43.93ha
6	伊那谷	ハヶ岳縞枯山希少個体群保護林	46.85ha
7	伊那谷	七島八島湿原希少個体群保護林	63.91ha
8	伊那谷	豊口山シダ希少個体群保護林	57.35ha
9	伊那谷	燕岩希少個体群保護林	98.10ha
10	伊那谷	丸山谷希少個体群保護林	51.02ha
11	伊那谷	小瀬戸谷・東風巻谷希少個体群保護林	122.01ha
12	伊那谷	風巻峠希少個体群保護林	741.15ha
13	伊那谷	白岩岳カラマツ等希少個体群保護林	95.34ha
14	伊那谷	巫女淵希少個体群保護林	182.52ha
15	飛騨川	赤沼田天保ヒノキ希少個体群保護林	3.25ha
		合 計	6,167.84ha